

2003年の創業から今年で20年目を迎えるエナ・メディカル（中央区湊野辺）は、医療事務代行業務や在宅介護サービスなど、医療と介護の連携を強化した質の高いサービスを提供するほか、介護アパレル商品の開発・販売にも力を入れています。自社ブランド商品第一号「自立支援型ショーツ・エナラック」は、15年相模原市トリアル認定商品に選ばれ、16年には第3回神奈川なでこブランドにも認定されました。介護保険サービスの枠にとどまらず、よりよい暮らしを実現するために妥協を許さない姿勢の裏側には、“女性たちが輝ける職場”というキーワードがあります。今回は南川千明社長に話を聞きました。

—まずは事業内容について教えてください。

「医療事務の代行や医療機関支援事業、それに在宅介護サービス事業、自立支援型ショーツの開発・販売といった介護アパレル事業などを展開しています。2年前からはリラクゼーション事業も始めました。また、お墓参りや大掃除、犬の散歩などオーダーメイドの要望にも応え、介護保険に依らない自費サービスにも力を入れています。『いろいろな問』を用意しておくことで、細かい情報共有と密なコミュニケーションが可能となり、ワンストップでトータル的なサービスを提供できると考えています。現在、柱にしている在宅介護サービス事業では、60代後半から90代まで、延べ450名の方々にご利用いただいています」

—医療介護業界で事業を始めた経緯を教えてください。

「もともと、女性が多い医療介護業界で20年ほど働いていたのですが、家事や育児などで女性がどんどん辞めていくの

を目の当たりにしていました。優秀な人なのにもつたいないな...と。『女性が生涯働き続ける環境をつくりたい』という思いが強くなり、独立することに。思いだけで始めた会社は、設立当初わずか3名でしたが、今では80人のスタッフたちが活躍しています。これからも『60代でも70代でも働きたい人が働き続けられる環境をつくる』を目標に尽力したいと思っています」

—介護アパレル用品・介護用品製造など、ものづくりに挑んでいます。

「『自立支援型ショーツ・エナラック』は弊社開発の第一号商品です。脳梗塞やリウマチなどで指が拘縮して動かしづらい方でも、指をかけて楽に着脱できる下着です。利用者様のニーズを最も把握できる現場スタッフたちの声をカタチにしたからこそ、『安心して外出できるようにした』など、利用者様から満足の声をいただいています」

「また、商品化の過程でスタッフたちが専門職としての知識を高め、自己成長や

自己実現につなげることができたことも大変意義深いことでした。今年1月からは石川県の金沢福祉用具情報プラザでの展示も始まりました。今後も現場の意見を取り入れながら、よりよいものづくりや利用者様によるこぼれるサービスの開発と提供をしていきたいと思っています」

—女性スタッフの活躍も目立っています。

「現在、社員の95%が女性です。女性のエンパワメントを活用することが重要

## 医療と介護を融合させて 安心して暮らせる地域社会を 女性の活躍に未来を託す

(株)エナ・メディカル  
代表取締役社長

南川 千明さん



だと思っています。実は3年前『女性学』を学ぶために2年間大学院に通っていました。『中小企業に於ける女性の経済的自立モデルの構築』という論文も書きました。今、学んだことを現場に生かし、手応えを感じています。安定的な就業を実現するためには、若いころからライフプランに基づいたキャリアアップを設定することが大切です。そのための支援をしていくことも私の大事な役割だと考えています」